

J R 東労組横浜地本青年部情報

Truth ~真実~

J R 東労組
横浜地本
公式 H P



第 0 2 号

2 0 2 3 年 1 0 月 1 8 日 発行

発行責任者 江村亜登夢

編集者 教宣部

第 2 1 回定期委員会「委員会宣言」

委員会宣言 (案)

私たち J R 東労組横浜地本青年部は 9 月 2 4 日、神奈川県労働文化センターホールにおいて第 2 1 回定期委員会を開催し、全青年部員総対話行動の実践で通じた青年部の必要性を再確認し、職場で不安に思う全ての仲間たちに寄り添う運動を実践していく方針のもと、J R 東労組の未来を切り拓いていくために 1 万人組織の実現をめざしていくことを満場一致で確認した。

J R 東日本会社は 2 0 2 3 年 3 月期決算で 3 期ぶりの黒字決算となった。これは、紛れもなく職場で奮闘する組合員・社員の努力があったからこそ実現できたものである。赤字・コロナ禍を理由に組合員・社員の努力に報いない会社姿勢を突破していくために 2 3 春闘をたたかってきた。横浜地本青年部は、会社や社友会からの低額相場づくりにだまされない青年部をつくりだすため、「全青年部員総対話行動」で青年部員の声や価値観を掴んだほか、対話を行った青年部員から「青年部の個別総対話は自分の考えを話しやすいので継続してほしい」など、総対話を行ったことで青年部員から青年部の必要性を感じてもらえたたたかいとなった。2 3 春闘の会社回答は「定期昇給(昇給係数 4)の実施と所定昇給額の 4 分の 1 に 4 0 0 0 円を加える」という回答であり、J R 東労組の一律 1 0, 0 0 0 円要求からは大きくかけ離れたものであった。しかし、定期昇給完全実施と基本給改定の会社回答を受けて「良かった」と切り縮めて捉える青年部員がいなかったことは、この間、横浜地本青年部として「全青年部員総対話行動」を担い、「労働者とは何か」「賃金とは何か」を青年部員との対話を通じて労働者意識を高めていき、会社姿勢に騙されず、労働者側の視点で物事を捉えることができる青年部員をつくり出した結果である。

一方で、職場では機器の取り扱い誤りや待避遅延で列車が緊急停止する事象、パートナー会社社員の感電死亡事故、さらには 8 月 5 日に東海道線大船駅構内において倒壊した電化柱に走行中の列車が衝突し、社員の命を奪いかねない事象が発生している。会社は、「安全は経営のトッププライオリティ」というものの、「安全」が根幹から揺らいでいると言わざるを得ない事態となっている。さらに、国府津運輸区や宇都宮運輸区では、本人が「自殺」を考えるまでに追い込む人間破壊の懲罰的日勤教育や、豊田運輸区で発生した人間破壊の強制転勤を推し進めるなど、私たちの命を脅かす事象が相次いで発生している。こうした会社の「安全」よりも「利益優先・運行優先」、さらにはミスをした社員に対し本人の事象と切り縮め、「原因究明よりも責任追及」の経営姿勢では、J R 西日本福知山線列車脱線事故を起こした J R 西日本会社の経営姿勢と同一のものであり、すでに J R 東日本会社もこのような経営姿勢となっていることを自覚しなければならない。横浜地本青年部ではこのような会社姿勢を断固許さず、青年部からたたかいをつくり出していく。

ロシアのウクライナ侵攻からまもなく 1 年 7 ヶ月が経過しようとしている。一向に戦争の惨禍が止むことなく、今も多くの労働者や市民、子どもたちが犠牲となり、日本においては防衛費の増額や安保関連三文書の改定など、戦争のできる国づくりが着々と進められている。この間、横浜地本青年部からも沖縄、広島へと青年部員が現地に立ち、戦争の悲惨さと今なお戦争の道に突き進むとする情勢を学んできた。横浜地本青年部は、あらゆる戦争にもテロにも反対し、平和の大切さ、そして戦争の真実について今後も仲間と共に学び、平和運動の大切さについて訴えていこうではないか！

以上、宣言する

2 0 2 3 年 9 月 2 4 日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部青年部
第 2 1 回定期委員会

青年部から議論し 1 万人組織に向けて実践しよう！